

技術成果をアピールするための表題作成 支援システムの開発

背 景

開発した技術を広くアピールするには、その広報資料などに、専門知識のない読者にも関心を持たれる表題をつけることが重要である。そのため当所では、新聞の見出しと論文・報告書の表題との比較分析に基づいて、以下の表題作成ポイントを整理し、これらに適合する表題は専門知識のない読者も関心を持つことを確認した^(注1, 2)。

- ポイント1：専門用語ではなく、意味の近い平易な用語を用いる
- ポイント2：技術内容ではなく、開発目的を述べる
- ポイント3：実現方法ではなく、技術の長所を述べる

目 的

表題作成ポイントに沿った、表題作成支援システムを開発し、その効果を検証する。

主な成果

1. 表題作成支援システムの開発

開発したシステムの特長は以下の通りである。

(a) 表題作成ポイントを明確に意識させる表題の作成手順

本システムは、表題作成のポイントと入力・書き換え個所を明示した書き換え用テンプレートを用意して順次提示することで、表題の原案の修正を促す。表題作成者は、各ポイントを明確に意識しながら検討個所を絞って効率的に表現の検討が行える(図1)。

(b) 専門知識のない読者に難解な用語の的確な検出

ポイント1を満たすには、専門知識のない読者にとって難解な用語の使用を避ける必要がある。WWW上の文書検索数に基づく用語の難易度自動判定機能により、難解な用語を的確に判断できる(図1の「用語の難易度判定」)。

(c) 開発技術の長所に関する表現の効率的検討

ポイント3を満たすには、技術の長所を多様な視点から検討し、簡潔で的確な表現を選定する必要がある。新聞見出しで使用される技術の長所の表現を整理したメニューにより、表現を効率的に検討できる(図1の「技術の長所の表現メニュー」)。

(d) 具体的事例を参考にした表現の検討

各ポイントに従った具体的表題の書き換え方を思いつき易くするため、論文・報告書の表題と新聞見出しとを対応づけた事例データベースを提供する。具体的な事例を参考にしながら、各ポイントに沿った表現を検討できる(図1の「論文表題と新聞見出しの事例データベース」)。

2. 表題作成支援システムの効果

当所の研究者17名が支援システムを用いずに作成した表題と支援システムを用

いた表題に関心を持つ割合を、アンケート会社のモニター約100名に対して調査した。支援システムを用いずに作成した表題が関心を得た割合が平均40%であったのに対し、支援システムを用いると平均53%に向上しており、支援システムによって、読者の関心をより引きやすい表題が作成できることが確認された。特に、支援システムを用いないと関心が高い表題を作成できなかった人に対する支援効果が高かった。

今後の展開

本システムは、広報資料作成などに広く活用できると期待される。本システムの普及を図る。

注1) 電力中央研究所研究報告 R00019「一般読者の理解と関心を得る表題のつけ方」(2001)

注2) 電力中央研究所研究報告 R01017「タイトルが読者の関心に及ぼす影響の分析」(2002)

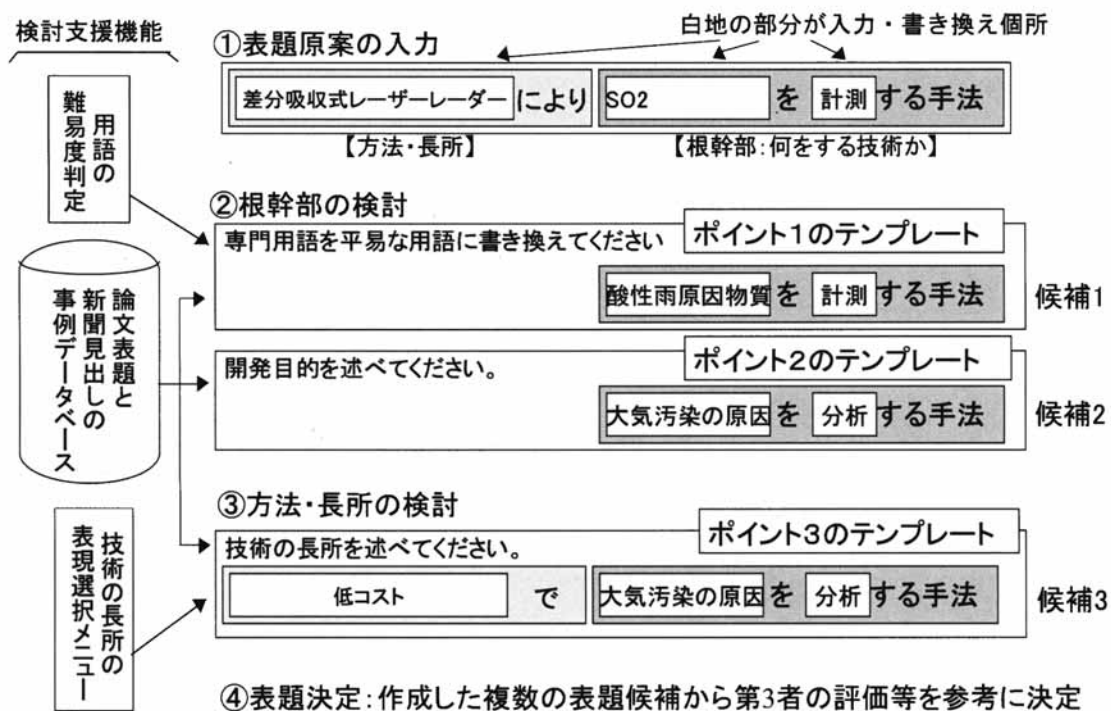


図1 表題作成支援システムを用いた表題作成の手順

研究報告 R03019	キーワード：表題、読者、理解、関心、表現技法
関連研究報告書	「一般読者の理解と関心を得る表題のつけ方」電力中央研究所研究報告 R00019 (2001.3) 「タイトルが読者の関心に及ぼす影響の分析」電力中央研究所研究報告 R01017 (2002.3)
担当者	千田 恭子 (情報研究所)
連絡先	(財)電力中央研究所 情報研究所 事務担当 Tel. 03-3480-2111(代) E-mail: cil-rr-ml@criepi.denken.or.jp